

# 平成23年度食のセミナー開催

## 食の安全と安心のために



◆県有林のCO<sub>2</sub>排出権販売  
広島県は、県有林がCO<sub>2</sub>を吸収する機能を権利化し、企業などに販売する事業を始める。県は11年9月～11月、北広島町芸北地区のヒノキ約44㌶で間伐を実施、密生を防ぎ、日当たりを良くして木が成長しやすい環境を整えた。その結果、環境省の制度に基づき、手入れ前と比べCO<sub>2</sub>を吸収できる量が年間185㌧分増えたと評価を得た。4月をめどに購入先を公募する手続きに入る。年間200万円の収入を見込み、契約年数などは今後話める。県は12年度も、三次市君田地区でヒノキ林約50㌶の間伐を予定している。

CO<sub>2</sub>の排出権を売買するための環境省の認証制度は08年にスタート。地球温暖化防止を目的に、温室効果ガスの削減効果を第3者機関が検証し、信頼性が高い。企業側には、排出権を買うことで企業活動で排出するCO<sub>2</sub>を相殺し、環境に優しい姿勢をPRできる。

### ◆CO<sub>2</sub>海底地層へ封じ込め

経産省は、発電所や工場から排出されるCO<sub>2</sub>を回収し、高い圧力をかけて地中に封じ込める技術の実証試験を北海道苫小牧沖で始める。2012年度に試験施設の設計、建設に着手し、16年度の運転開始を目指す。

CCSと呼ばれる技術で、ノルウェーや米国で開発が進む。温暖化対策の一つとして期待され、今回の試験では年10万㌧以上のCO<sub>2</sub>を海底の地層に封じ込めて貯蔵する。

計画では、苫小牧市と室蘭市の製油所から出るCO<sub>2</sub>を回収し、パイプラインやタンクローリーで輸送。地下1,100～1,200㍍と2,400～3,000㍍の2つの砂岩層に圧力をかけて送り込む。それぞれの砂岩層の上には泥岩層があり、CO<sub>2</sub>が外に漏れないよう、ふたの役割を果たす。

経産省は03～05年にも約1万㌧を地中に封じ込める実証実験を新潟県長岡市で実施。計算上は、1,000年後もCO<sub>2</sub>が漏れないことを確認した。

### ◆ボリオワクチン接種控え顕著

乳幼児に対する昨年9～12月のボリオ（小児麻痺）の生ワクチン接種率は、前年同期に比べ15.2ポイント低下の75.6%だったことが、厚労省の調査（速報値）で分かった。調査は、春と秋の2シーズンに定期接種を実施している全国1,282市区町村を集計した。

これまでの予防接種率は95%前後で推移。厚労省は、安全性の高い不活化ワクチンの導入まで接種を控える保護者が増えたとみている。

ボリオの生ワクチン予防接種は乳幼児が生後3ヶ月～1歳6ヶ月の間に2回受けるのが一般的。ただ、100万人に1.4人の割合で副作用の麻痺が生じる恐れがある。厚労省は、今年秋に不活化ワクチンの導入を目指しており、「予防接種を控えると免疫を持たない人が増え、ボリオが流行する危険性がある」として、生ワクチンの接種を呼びかけている。

厚労省によると、接種率は、2010年4月～8月が09年に新型インフルエンザの流行で定期接種を中止する自治体が相次いだ影響で99.4%と高かったが、10年秋は90.8%に低下。11年はさらに低下が続き、春が83.5%、秋が75.6%にまで落ち込んだ。

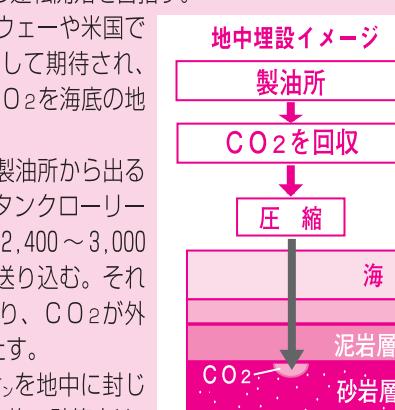
### ◆腹囲基準内でも 非メタボに保健指導

厚生労働省は、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に注目した特定健診・保健指導（メタボ健診）で、腹囲が基準値未満のため「メタボ」とみなされない人でも、高血圧や高血糖などの危険因子を持つ場合、きめ細かな保健指導を行うよう、事業者や市町村に求める方針を決めた。

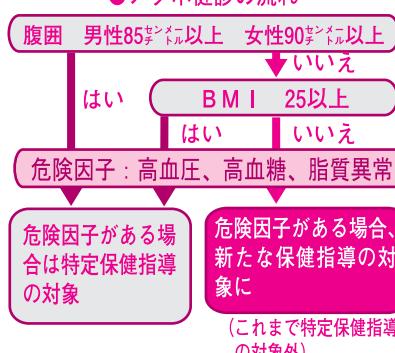
男性85㌢以上、女性90㌢以上の腹囲基準は見直さず、新たな保健指導は、メタボ健診制度とは別の枠組みで行う。同省の「健診・保健指導の在り方に関する検討会」で28日に中間とりまとめを行い、2013年度の制度見直しに反映させる。

現在のメタボ健診は、腹囲が基準を超えて、高血圧、高血糖、脂質異常の危険因子があると、特定保健指導の対象となる。しかし、腹囲が基準値未満だと、体格指数（BMI）が25未満なら、危険因子があつても指導の対象外だった。

厚労省研究班の調査で、腹囲が基準値未満でも、危険因子が重なると、心臓病や脳卒中の発症の危険性が同じように高まることがわかり、同省は、危険因子を持つ、こうした人たちを放置できないと判断した。



### ●メタボ健診の流れ



(これまで特定保健指導の対象外)

講演を熱心に聴く参加者の方々  
◆県有林のCO<sub>2</sub>排出権販売  
広島県は、県有林がCO<sub>2</sub>を吸収する機能を権利化し、企業などに販売する事業を始める。県は11年9月～11月、北広島町芸北地区のヒノキ約44㌶で間伐を実施、密生を防ぎ、日当たりを良くして木が成長しやすい環境を整えた。その結果、環境省の制度に基づき、手入れ前と比べCO<sub>2</sub>を吸収できる量が年間185㌧分増えたと評価を得た。4月をめどに購入先を公募する手続きに入る。年間200万円の収入を見込み、契約年数などは今後話める。県は12年度も、三次市君田地区でヒノキ林約50㌶の間伐を予定している。

CO<sub>2</sub>の排出権を売買するための環境省の認証制度は08年にスタート。地球温暖化防止を目的に、温室効果ガスの削減効果を第3者機関が検証し、信頼性が高い。企業側には、排出権を買うことで企業活動で排出するCO<sub>2</sub>を相殺し、環境に優しい姿勢をPRできる。

CCSと呼ばれる技術で、ノルウェーや米国で開発が進む。温暖化対策の一つとして期待され、今回の試験では年10万㌧以上のCO<sub>2</sub>を海底の地層に封じ込めて貯蔵する。

計画では、苫小牧市と室蘭市の製油所から出るCO<sub>2</sub>を回収し、パイプラインやタンクローリーで輸送。地下1,100～1,200㍍と2,400～3,000㍍の2つの砂岩層に圧力をかけて送り込む。それぞれの砂岩層の上には泥岩層があり、CO<sub>2</sub>が外に漏れないよう、ふたの役割を果たす。

経産省は03～05年にも約1万㌧を地中に封じ込める実証実験を新潟県長岡市で実施。計算上は、1,000年後もCO<sub>2</sub>が漏れないことを確認した。

### ◆ボリオワクチン接種控え顕著

乳幼児に対する昨年9～12月のボリオ（小児麻痺）の生ワクチン接種率は、前年同期に比べ15.2ポイント低下の75.6%だったことが、厚労省の調査（速報値）で分かった。調査は、春と秋の2シーズンに定期接種を実施している全国1,282市区町村を集計した。

これまでの予防接種率は95%前後で推移。厚労省は、安全性の高い不活化ワクチンの導入まで接種を控える保護者が増えたとみている。

ボリオの生ワクチン予防接種は乳幼児が生後3ヶ月～1歳6ヶ月の間に2回受けのが一般的。ただ、100万人に1.4人の割合で副作用の麻痺が生じる恐れがある。厚労省は、今年秋に不活化ワクチンの導入を目指しており、「予防接種を控えると免疫を持たない人が増え、ボリオが流行する危険性がある」として、生ワクチンの接種を呼びかけている。

厚労省によると、接種率は、2010年4月～8月が09年に新型インフルエンザの流行で定期接種を中止する自治体が相次いだ影響で99.4%と高かったが、10年秋は90.8%に低下。11年はさらに低下が続き、春が83.5%、秋が75.6%にまで落ち込んだ。

### ◆腹囲基準内でも 非メタボに保健指導

厚生労働省は、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に注目した特定健診・保健指導（メタボ健診）で、腹囲が基準値未満のため「メタボ」とみなされない人でも、高血圧や高血糖などの危険因子を持つ場合、きめ細かな保健指導を行うよう、事業者や市町村に求める方針を決めた。

男性85㌢以上、女性90㌢以上の腹囲基準は見直さず、新たな保健指導は、メタボ健診制度とは別の枠組みで行う。同省の「健診・保健指導の在り方に関する検討会」で28日に中間とりまとめを行い、2013年度の制度見直しに反映させる。

現在のメタボ健診は、腹囲が基準を超えて、高血圧、高血糖、脂質異常の危険因子があると、特定保健指導の対象となる。しかし、腹囲が基準値未満だと、体格指数（BMI）が25未満なら、危険因子があつても指導の対象外だった。

厚労省研究班の調査で、腹囲が基準値未満でも、危険因子が重なると、心臓病や脳卒中の発症の危険性が同じように高まることがわかり、同省は、危険因子を持つ、こうした人たちを放置できないと判断した。

◆県有林のCO<sub>2</sub>排出権販売  
広島県は、県有林がCO<sub>2</sub>を吸収する機能を権利化し、企業などに販売する事業を始める。県は11年9月～11月、北広島町芸北地区のヒノキ約44㌶で間伐を実施、密生を防ぎ、日当たりを良くして木が成長しやすい環境を整えた。その結果、環境省の制度に基づき、手入れ前と比べCO<sub>2</sub>を吸収できる量が年間185㌧分増えたと評価を得た。4月をめどに購入先を公募する手続きに入る。年間200万円の収入を見込み、契約年数などは今後話める。県は12年度も、三次市君田地区でヒノキ林約50㌶の間伐を予定している。

CO<sub>2</sub>の排出権を売買するための環境省の認証制度は08年にスタート。地球温暖化防止を目的に、温室効果ガスの削減効果を第3者機関が検証し、信頼性が高い。企業側には、排出権を買うことで企業活動で排出するCO<sub>2</sub>を相殺し、環境に優しい姿勢をPRできる。

### ◆ボリオワクチン接種控え顕著

乳幼児に対する昨年9～12月のボリオ（小児麻痺）の生ワクチン接種率は、前年同期に比べ15.2ポイント低下の75.6%だったことが、厚労省の調査（速報値）で分かった。調査は、春と秋の2シーズンに定期接種を実施している全国1,282市区町村を集計した。

これまでの予防接種率は95%前後で推移。厚労省は、安全性の高い不活化ワクチンの導入まで接種を控える保護者が増えたとみている。

ボリオの生ワクチン予防接種は乳幼児が生後3ヶ月～1歳6ヶ月の間に2回受けのが一般的。ただ、100万人に1.4人の割合で副作用の麻痺が生じる恐れがある。厚労省は、今年秋に不活化ワクチンの導入を目指しており、「予防接種を控えると免疫を持たない人が増え、ボリオが流行する危険性がある」として、生ワクチンの接種を呼びかけている。

厚労省によると、接種率は、2010年4月～8月が09年に新型インフルエンザの流行で定期接種を中止する自治体が相次いだ影響で99.4%と高かったが、10年秋は90.8%に低下。11年はさらに低下が続き、春が83.5%、秋が75.6%にまで落ち込んだ。

### ◆腹囲基準内でも 非メタボに保健指導

厚生労働省は、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に注目した特定健診・保健指導（メタボ健診）で、腹囲が基準値未満のため「メタボ」とみなされない人でも、高血圧や高血糖などの危険因子を持つ場合、きめ細かな保健指導を行うよう、事業者や市町村に求める方針を決めた。

男性85㌢以上、女性90㌢以上の腹囲基準は見直さず、新たな保健指導は、メタボ健診制度とは別の枠組みで行う。同省の「健診・保健指導の在り方に関する検討会」で28日に中間とりまとめを行い、2013年度の制度見直しに反映させる。

現在のメタボ健診は、腹囲が基準を超えて、高血圧、高血糖、脂質異常の危険因子があると、特定保健指導の対象となる。しかし、腹囲が基準値未満だと、体格指数（BMI）が25未満なら、危険因子があつても指導の対象外だった。

厚労省研究班の調査で、腹囲が基準値未満でも、危険因子が重なると、心臓病や脳卒中の発症の危険性が同じように高まることがわかり、同省は、危険因子を持つ、こうした人たちを放置できないと判断した。

現在のメタボ健診は、腹囲が基準を超えて、高血圧、高血糖、脂質異常の危険因子があると、特定保健指導の対象となる。しかし、腹囲が基準値未満だと、体格指数（BMI）が25未満なら、危険因子があつても指導の対象外だった。

厚労省研究班の調査で、腹囲が基準値未満でも、危険因子が重なると、心臓病や脳卒中の発症の危険性が同じように高まることがわかり、同省は、危険因子を持つ、こうした人たちを放置できないと判断した。

現在のメタボ健診は、腹囲が基準を超えて、高血圧、高血糖、脂質異常の危険因子があると、特定保健指導の対象となる。しかし、腹囲が基準値未満だと、体格指数（BMI）が25未満なら、危険因子があつても指導の対象外だった。

厚労省研究班の調査で、腹囲が基準値未満でも、危険因子が重なると、心臓病や脳卒中の発症の危険性が同じように高まることがわかり、同省は、危険因子を持つ、こうした人たちを放置できないと判断した。

現在のメタボ健診は、腹囲が基準を超えて、高血圧、高血糖、脂質異常の危険因子があると、特定保健指導の対象となる。しかし、腹囲が基準値未満だと、体格指数（BMI）が25未満なら、危険因子があつても指導の対象外だった。

厚労省研究班の調査で、腹囲が基準値未満でも、危険因子が重なると、心臓病や脳卒中の発症の危険性が同じように高まることがわかり、同省は、危険因子を持つ、こうした人たちを放置できないと判断した。

現在のメタボ健診は、腹囲が基準を超えて、高血圧、高血糖、脂質異常の危険因子があると、特定保健指導の対象となる。しかし、腹囲が基準値未満だと、体格指数（BMI）が25未満なら、危険因子があつても指導の対象外だった。

厚労省研究班の調査で、腹囲が基準値未満でも、危険因子が重なると、心臓病や脳卒中の発症の危険性が同じように高まることがわかり、同省は、危険因子を持つ、こうした人たちを放置できないと判断した。

現在のメタボ健診は、腹囲が基準を超えて、高血圧、高血糖、脂質異常の危険因子があると、特定保健指導の対象となる。しかし、腹囲が基準値未満だと、体格指数（BMI）が25未満なら、危険因子があつても指導の対象外だった。

厚労省研究班の調査で、腹囲が基準値未満でも、危険因子が重なると、心臓病や脳卒中の発症の危険性が同じように高まることがわかり、同省は、危険因子を持つ、こうした人たちを放置できないと判断した。

現在のメタボ健診は、腹囲が基準を超えて、高血圧、高血糖、脂質異常の危険因子があると、特定保健指導の対象となる。しかし、腹囲が基準値